

## はたちの主張

### 支援者として

家族をはじめ、これまで支えてくださった先生方や友人など、数え切れないほど多くの方々のおかげで、私は今日という節目を迎えることができました。嬉しいことや悔しいこと、迷いや不安を感じたときも、そばで見守り励ましてくださった皆さんの存在があったからこそ、ここまで成長することができたと心から感謝しています。

私は将来、少年院や児童相談所などの施設で心理士として働きたいと考えています。心理士を目指そうと決めたきっかけは、何かを頑張ろうとしても頑張るための環境が整っておらず、辛い思いをしている子どもがいると知ったことでした。未熟だった私は、恵まれない環境にある子どもたちを心の面から支え、同時に子どもを困難な環境に置いた「間違った」大人を直すことで、多くの問題は解決できると考えて

いました。しかし現実はその単純ではありませんでした。たとえ大人でも衣食住などの基本的な生活を維持することが困難な人や、周囲から理解を得られず孤独を抱える人がいるのだと知りました。正すべきだと思っていた大人自身もまた困難を抱えており、多くの生活面の課題は心の支援だけではどうしようもないことに気づいたのでした。

それでも私が心理士を目指し続けているのは、心の支援を通して「絶対悪」とされてしまう人の背景にも目を向けたいと考えるようになったからです。少年院や児童相談所は、犯罪や虐待などの悲しい出来事と向き合う場所です。利用する人の中には理解しがたい行動をしてしまった人もいます。決してその行為を肯定するつもりはありませんが、話を聞き、本当に必要だった支援を考えることで、同じ悲しみを繰り返さない未来につなげられると信じています。

これまで多くの方に支えられ、守ら

れ、導いていただいたからこそ、今の私があります。これからはその感謝を胸に、人の痛みに寄り添い、簡単に見放すのではなく、希望をつなぐ支援者として社会に貢献できるよう努力していきます。

令和8年3月15日 田中 淳子